

令和5年度

広島市立広島中等教育学校入学者選抜

## 適性検査1 問題用紙

### 【検査にあたって】

- ・ 「始め」の合図があるまでは、開いて問題を見てはいけません。
- ・ 検査問題は、1ページから10ページまであります。
- ・ 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。解答用紙は2枚あります。
- ・ 「始め」の合図があつてから、問題用紙のページ数を確かめ、問題用紙の表紙および解答用紙2枚ともに受検番号を書きなさい。
- ・ 問題用紙のページ数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷の悪いところがあった場合は、静かに手をあげなさい。
- ・ 「やめ」の合図があつたら、筆記用具を置き、机の中央に、問題用紙、解答用紙(2枚目)、解答用紙(1枚目)の順に(表)を上にして書きなさい。
- ・ この検査の時間は、50分間です。
- ・ 問題用紙は、持ち帰ってはいけません。
- ・ 文章で答える問題は、句読点や記号も1字と数えます。

受 検 番 号



このページは白紙です。

## 【問題1】

次の〈A〉、〈B〉の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

### 〈A〉

園や学校の運動会では、リレーや徒競走などで児童・生徒の順位付けを行っていることが多いと思います。順位付けをすると、競争心が育まれるというプラス思考や、やる気を失うというマイナス思考が生まれます。全員で走ってみんなでゴールテープを切るような光景を目にしたことがあるでしょうか。個人競技を減らし、玉入れや綱引き、ダンスなどのチーム全体の競技を増やしても、やはり優劣が付けられています。これを「悪しき平等主義」と捉えて、①競争の順位付けの賛否について述べたいと思います。

順位付けのプラス面として、秀でたところが個性なのだから賞賛されて当たり前だと考えられたり、挫折体験も児童・生徒の成長に必要であるとか、競争社会において経験しておくべきだと考える傾向がみられます。

一方、順位付けのマイナス面として、失敗体験ばかりしたり、楽しさがなくなったり、児童・生徒の間に差別意識が生まれ、\*1劣等感を生み出しています。

人はみんな違いを持って生まれています。その後の成長には、環境やその後の教育が大きく影響します。児童・生徒は、大人が順位を付けなくても、自分で他者よりも出来るという自己肯定や、出来ないという自己否定を日々の生活の中でヒシヒシと感じながら生きています。

例えば、園や学校の壁にクラス全員の絵を展示したとします。順位が付いていなくても、自分は他者より絵が下手だという劣等感を生徒・児童自身が感じ、教師や親も比べて優劣の感情を持つことは、人として自然なことだと思います。

園児は、小学校に入学すると成績を付けられ評価されます。競争社会に出れば順位付けという評価はさらに\*2顕著です。それでは、成長過程で過度に挫折感を味わうことは強固な精神を育み、その後の人生の障壁を受容できる\*3人格形成に繋がるのでしょうか。

徒競走は遅いけれども絵が上手と褒められるケースもあるでしょう。成績が良くなくても運動神経だけは素晴らしいと褒める大人もいます。このような、児童・生徒への励ましの言葉は好ましいでしょうか。こんな時、親や教師はどのような言葉をかけているのでしょうか。

「どうして一番になれないのか」、「今度は頑張って一番になろう」、「なぜもっと頑張れないの」、「それが悔しくないの」、「そんなだから恥ずかしい」など、もし大人がこのような言葉を発したら、児童・生徒は一番でないという意味がないとか、負けることは良くないとか、親のために頑張

ろうとか、楽しくないから辞めてしまおうなどの価値観を身に付けてしまいます。

人は、生まれながらに同じではありません。しかし、背の高い人と低い人、裕福な家庭とそうでない家庭などの遺伝的資質や<sup>※4</sup>環境要因の多様性に対して、偏見や差別を持って生まれてはいないのです。

競争や順位付けは、過度の緊張状態を生み出し、大きなプレッシャーになったり、差別や優劣の意識が生まれたりします。順位を付けられることにより、競争社会で生き抜くために必要な心の強さが育まれると考えたり、親が過度に期待したり、誇らしく思う気持ちは愛情であると考えたりすることは、個の意思の自由と平等を尊重して、疾病や障害と共生する社会の実現には、逆行しているとしか感じられません。

順位付けされないまま育つことが挫折を知らない弱い精神になってしまうなどと考えることは、現代の実社会に生きる大人たちの身勝手な妄想かもしれません。

育成や教育には一定の<sup>※5</sup>アセスメントが必要です。しかし、人と人を横軸で比較せず、目標値を設定して到達度を評価するスケール法があります。ある学習の到達目標度を100%とした場合、自身の到達度が84%ならば残る16%を充足する努力が求められていることとなります。横にいる他者と比較することはないのです。

自己肯定感を<sup>※6</sup>醸成し、自分らしい目標の持ち方を学ぶことは、競争社会で<sup>※7</sup>切磋琢磨して生きることに逆行するものではありません。

(日本教育新聞 2021年4月14日 <https://www.kyoiku-press.com/post-229131>)

※1 劣等感…自分が他の人と比べておとっているという感情。

※2 顕著…誰の目にも明らかなほどはっきりあらわれているようす。

※3 人格形成…人が成長していく過程で、その人特有の人間性が作られること。

※4 環境要因…生き物の成長に影響を与える原因となるもの。

※5 アセスメント…ある出来事・事について評価や分析をすること。

※6 醸成…ある集団に特定の雰囲気や考え方を徐々に作り出すこと。

※7 切磋琢磨…互いに協力したり競ったりして高め合うこと。

## 〈B〉

「他人と比べるのはよくない」

そんな考えから徒競走で順位をつけないナゾ教育を方針とする学校があるようで、それに賛同する声も、最近チラホラと耳にします。

僕は、個人的にはこの“比べない教育”は微妙だと思っています。大人になって社会に出ると他人と比べられるのが当たり前。

< 中 略 >

学校は社会で生きていくための準備をするところですから、学校で競争があることを教えておくのは必要なことです。

< 中 略 >

もちろん、比べられることで劣等感を抱き、やる気を失ってしまう子どももいるでしょう。しかし、逆に比べられることで客観的な成果を把握し、うまくやっている人の真似をしようとする、競争力を身につけるきっかけにもなり得るのです。

つまり、教育において比べることが問題なのではなく、評価の仕方が問題だと思うのです。

ここで重要になってくるのが、比べられても“できない子”という劣等感を抱かせないようにして、次に頑張るように仕向けられるかどうかです。

比べられて“できない”とわかったら、違うことを見つけるチャンスでもあります。ガチで向いていない不得意なことをやり続けるくらいなら、得意なものを探して上手になっていくことを教えたほうが健全ですし、子どものためにもなると思うのです。

< 中 略 >

人間、得手不得手というのは誰にでもあるものです。それを子どもが知り、努力したことが身になっているかを確認するために、競争やテストが存在しているわけです。だから、②子どものマイナスにならなければ、比べることはいくらでもやればいい。

子どものためを思うなら競争を避けるのではなく、競争やテストを受け入れ、得意な能力を伸ばしていくことを考えるのがいいと思うのです。

(日刊 SPA! 2021 年 10 月 20 日 <https://nikkan-spa.jp/1786823>)

[問1]

文章〈A〉の下線部①に「競争の順位付けの賛否について述べたい」とありますが、〈A〉の筆者は「競争の順位付け」について反対の立場を取っています。

- (1) 反対の立場をとっている理由について、「競争の順位付け」の持つ悪い点に注目して、40字以内で説明しなさい。
- (2) 〈A〉の筆者が児童・生徒に良い影響を与えていることとして適切なものはどれですか。次のア～カの中から全て選び、記号で答えなさい。

- ア 運動会の徒競走で、みんな一斉<sup>いっせい</sup>にゴールテープを切ること。
- イ 賞や順位を付けずに、絵や習字などの作品を展示すること。
- ウ 他人に勝つためではなく、親を喜ばせるために頑張ること。
- エ 自分らしい目標を立てて、それを達成する努力をすること。
- オ 親や教師が、子どもに対して好ましい言葉で励ますこと。
- カ 運動会で個人競技を減らし、集団競技を増やすこと。

[問2]

文章〈B〉の下線部②に「子どものマイナスにならなければ、比べることはいくらでもやればいい」とあるように、〈B〉の筆者は「競争の順位付け」について賛成の立場を取っています。

- (1) 〈B〉の筆者は「比べること」にどのようなメリットがあると考えていますか。30字以内で答えなさい。
- (2) 〈B〉の筆者は「子どものマイナス」をどのようなものとして考えていますか。次のア～ウについて、その例として適当なものには○、不適当なものには×を解答欄に書きなさい。

- ア 他人と比べることによって、客観的に物事をとらえて、うまくやっている人のやり方をぬすもうとすること。
- イ 競争し負けることによって、「自分はできない子だ」と考えるようになり、やる気を失ってしまうこと。
- ウ 競争していく中で、自身に向いていないものがあることに気づき、その方面の努力に向ける力を減らすこと。

〔問3〕

資料〈A〉、〈B〉を読んで、あなたは「競争の順位付け」についてどのように考えますか。次の条件にしたがって書きなさい。

- 条件1 3段落構成で書くこと。
- 条件2 1段落目では、「賛成」、「反対」のどちらの立場であるかを示すこと。
- 条件3 2段落目では、自分がその立場に立った理由をあげること。
- 条件4 3段落目では、理由に説得力を持たせるために具体例を示すこと。
- 条件5 240字以上300字以内で書くこと。



このページは白紙です。

## 【問題2】

近年、わたしたちの食生活は大きく変わってきています。そのことについて、考えてみましょう。

〈資料1〉国民1人あたりの消費量(kg)

年度	米	小麦	野菜	果実	肉類	魚介類
1965年	112	29	108	29	9	28
2020年	51	32	89	34	34	24

出典：農林水産省「食料需給表」<sup>じゆきゆう</sup>より作成

(<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>)

〈資料2〉<sup>※1</sup>食料自給率(%)

年度	品目別自給率						※2 総合食料自給率
	米	小麦	野菜	果実	肉類	魚介類	
1965年	95	28	100	90	42	100	73
2020年	97	15	80	38	7	55	37

出典：農林水産省「食料需給表」より作成

(<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>)

※1 食料自給率…ある国で消費される食料のうち国内で生産される食料の割合の指標。

※2 総合食料自給率…食料の量を重さで比較<sup>ひかく</sup>することが難しいため、栄養価であるエネルギーに着目して、国内で消費される食料の総エネルギーのうち国内で生産される食料の総エネルギーの割合の指標。

### 〔問1〕

下線部「わたしたちの食生活は大きく変わってきています。」とあります。その変化を表した〈資料1〉と〈資料2〉をふまえて、なぜ日本の総合食料自給率が低下したのか、考えられる理由を40字以内で答えなさい。

〈資料3〉国別の農業に関する比較

著作権上の都合により、資料を省略してあります。

出典：国際統計格付センター「世界ランキング」より作成

(<http://top10.sakura.ne.jp/index.html>)

※3 農業従事者数…農業にたずさわる人々のこと。

〔問2〕

日本の農作物よりも海外の農作物の方が安いとされています。〈資料3〉をふまえて、なぜ海外の農作物の方が安いのか、考えられる理由を40字以内で答えなさい。ただし、4つの国の農業従事者1人あたりの平均収入のちがいは考えないものとしします。

〈資料4〉稲作<sup>いなさく</sup>の農作業ごよみ

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
農作業	田んぼの準備・ <sup>なえ</sup> 苗づくり				田植え・管理			しゅうかく 収穫			

〈資料5〉広島<sup>つぎべつこうすい</sup>の月別降水量(mm)

年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1991年	192	109	245	463	46	107	23
1993年	61	158	362	646	462	202	96
1995年	137	270	118	452	43	115	97
1997年	145	292	181	458	131	243	28

出典：気象庁「過去の気象データ<sup>けんさく</sup>検索」より作成

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

〈資料6〉広島<sup>けんさく</sup>の※<sup>4</sup>月別日照時間(時間)

年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1991年	175	138	88	134	183	161	155
1993年	214	179	126	122	120	131	176
1995年	160	205	168	172	266	152	195
1997年	195	191	177	162	198	151	243

出典：気象庁「過去の気象データ<sup>けんさく</sup>検索」より作成

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

※<sup>4</sup> 月別日照時間…1ヶ月ごとの<sup>ちやくしや</sup>直射日光が地表を照らした時間の合計

〔問3〕

1991年、1993年、1995年、1997年の中で、日本の米の食料自給率が非常に低かった年があります。〈資料4〉と、当時の気候について広島を例として取り上げた〈資料5〉および〈資料6〉をふまえて、あてはまる年を1つ選び、答えなさい。

また、その選んだ年に、なぜ日本の米の食料自給率が低下したのか、考えられる理由を60字以内で答えなさい。

〔問4〕

ロボットが人間のかわりに収穫を行ったり、温度や湿度<sup>しつど</sup>を管理して自動でスプリンクラーを作動させたりするなど、ロボット技術や情報通信技術などを活用する農業を「スマート農業」と言います。「スマート農業」の効果の1つとして、日本の総合食料自給率を向上させることが期待されます。なぜ「スマート農業」の活用により日本の総合食料自給率の向上が期待できるのか、考えられる理由を80字以内で答えなさい。ただし、〈資料1〉～〈資料6〉のうち、2つ以上をふまえて考えなさい。

このページは白紙です。